



## 2022年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年5月2日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <https://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 2022年5月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年9月期第2四半期の業績(2021年10月1日～2022年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第2四半期	1,467	4.6	6	87.8	6	87.6	10	
2021年9月期第2四半期	1,538	5.1	51	134.9	51	123.2	34	226.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第2四半期	0.72	
2021年9月期第2四半期	2.41	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第2四半期	1,531	1,146	74.9	80.95
2021年9月期	1,491	1,156	77.5	81.67

(参考)自己資本 2022年9月期第2四半期 1,146百万円 2021年9月期 1,156百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期		0.00		0.00	0.00
2022年9月期		0.00			
2022年9月期(予想)					

2022年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

### 3. 2022年9月期の業績予想(2021年10月1日～2022年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期2Q	14,436,600 株	2021年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	2022年9月期2Q	278,800 株	2021年9月期	278,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期2Q	14,157,800 株	2021年9月期2Q	14,157,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当第2四半期累計期間において、商品につきましては、「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」を強化してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等による景気の先行きは不透明な状況となっていることから、お買い得感のある「生活応援企画商品」を共に強化することで顧客数の確保と売上高の拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高は1,467,458千円(前年同四半期比4.6%減)、営業利益は6,235千円(前年同四半期比87.8%減)、経常利益は6,331千円(前年同四半期比87.6%減)、四半期純損失は10,166千円(前年同四半期は四半期純利益34,050千円)となりました。

なお、第1四半期会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。この結果、当第2四半期累計期間における売上高は、前第2四半期累計期間と比較して大きく減少しております。

詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記事項 (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (小売事業)

当セグメントにおきましては「三代目茂蔵」の健康ブランド認知度の更なる向上を推し進めております。

当第2四半期累計期間におきましては、健康ブランド向上を目指し従来の豆腐・豆乳・おからに加えて雑穀米、全粒粉等の食物繊維が多い素材を使用した商品開発を実行してまいりました。具体的には雑穀米を使用した健康弁当、健康太巻き、健康いなりの米飯開発、全粒粉では健康ドーナツ、健康たまごパン、夜食べるおつまみ等のデザート、菓子類を開発し順次発売しました。

これらにより1店舗平均の顧客数につきましては前年同四半期比102.7%となりました。時間帯別には開店から14時迄は「朝市」等のイベント開催により同109.1%と顧客来店頻度向上が定着しつつあります。一方で17時から閉店までは同96.7%の結果になりましたが、夕食用の健康弁当を強化したこともあり1月以降は同100%を超える水準となりました。また、顧客単価につきましては「朝市」等での価格見直し等の影響もあり同96.4%となりました。

店舗につきましては、販売スタッフの強化及び1店舗あたりの生産性向上を目指し既存店舗の見直しを優先しております。

以上の結果、小売事業の売上高は1,302,286千円(前年同四半期は1,388,845千円)となりました。セグメント利益(営業利益)につきましては、売上高の減少、「生活応援企画商品」の強化や「朝市」の開催等による売上総利益率の低下及び最低賃金上昇による人件費上昇等により63,298千円(前年同四半期比40.3%減)となりました。

#### (その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は165,171千円(前年同四半期比10.6%増)、セグメント利益(営業利益)は17,826千円(前年同四半期比8.2%減)となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	44	—	1	43
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	125	78	3	200
	合計	169	78	4	243

（2）財政状態に関する説明

① 財政状態

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して39,234千円増加し1,531,079千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加51,304千円、売掛金及び契約資産の増加7,072千円及び有形固定資産の減少13,168千円等によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して49,401千円増加し384,997千円となりました。主な要因は、買掛金の増加50,219千円、未払金の増加9,892千円及び長期借入金の減少10,002千円等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して10,166千円減少し1,146,082千円となりました。これは四半期純損失10,166千円の計上により利益剰余金が10,166千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して51,304千円増加し600,253千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、57,664千円（前年同四半期は90,991千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として減価償却費及びその他の償却費11,614千円、仕入債務の増加額50,219千円、減少要因として売上債権の増加額7,072千円、棚卸資産の増加額4,620千円及び法人税等の支払額10,817千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、3,637千円（前年同四半期は3,970千円の支出）となりました。これは、敷金及び保証金の回収による収入1,580千円及びリース債権の回収による収入2,292千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、10,002千円（前年同四半期は10,002千円の支出）となりました。これは長期借入金の返済による支出10,002千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。

なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	548,948	600,253
売掛金	66,392	—
売掛金及び契約資産	—	73,465
商品	37,633	42,360
貯蔵品	580	474
その他	43,609	35,472
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	697,135	751,995
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	63,407	52,951
構築物(純額)	4,462	4,146
工具、器具及び備品(純額)	13,418	11,417
土地	562,970	562,970
その他(純額)	2,325	1,932
有形固定資産合計	646,586	633,417
無形固定資産	2,473	5,144
投資その他の資産		
敷金及び保証金	139,585	138,005
その他	6,261	2,713
貸倒引当金	△197	△197
投資その他の資産合計	145,650	140,522
固定資産合計	794,710	779,084
資産合計	1,491,845	1,531,079
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	170,068	220,288
1年内返済予定の長期借入金	20,004	20,004
未払金	46,429	56,322
未払費用	39,413	41,215
未払法人税等	18,661	16,264
その他	1,965	1,850
流動負債合計	296,542	355,945
固定負債		
長期借入金	36,654	26,652
その他	2,400	2,400
固定負債合計	39,054	29,052
負債合計	335,596	384,997
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	76,698	66,531
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,156,249	1,146,082
純資産合計	1,156,249	1,146,082
負債純資産合計	1,491,845	1,531,079

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
売上高	1,538,170	1,467,458
売上原価	1,008,943	977,588
売上総利益	529,226	489,869
販売費及び一般管理費	478,218	483,633
営業利益	51,007	6,235
営業外収益		
受取利息	9	7
未払配当金除斥益	415	—
受取保険金	—	200
その他	40	71
営業外収益合計	466	278
営業外費用		
支払利息	251	181
その他	—	1
営業外費用合計	251	182
経常利益	51,222	6,331
特別損失		
減損損失	1,432	2,963
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	—	4,844
特別損失合計	1,432	7,808
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	49,790	△1,477
法人税、住民税及び事業税	15,739	8,688
法人税等合計	15,739	8,688
四半期純利益又は四半期純損失(△)	34,050	△10,166

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	49,790	△1,477
減価償却費及びその他の償却費	13,719	11,614
減損損失	1,432	2,963
受取利息及び受取配当金	△9	△7
支払利息	251	181
為替差損益 (△は益)	△2	△4
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	—	4,844
売上債権の増減額 (△は増加)	△10,091	△7,072
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,097	△4,620
仕入債務の増減額 (△は減少)	31,963	50,219
未払金の増減額 (△は減少)	2,777	4,564
未払消費税等の増減額 (△は減少)	12,426	1,189
その他	12,755	6,256
小計	111,914	68,652
利息及び配当金の受取額	9	7
利息の支払額	△247	△177
法人税等の支払額	△20,685	△10,817
営業活動によるキャッシュ・フロー	90,991	57,664
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△6,295	△234
敷金及び保証金の回収による収入	—	1,580
リース債権の回収による収入	2,325	2,292
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,970	3,637
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△10,002	△10,002
配当金の支払額	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,002	△10,002
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	77,020	51,304
現金及び現金同等物の期首残高	533,817	548,948
現金及び現金同等物の四半期末残高	610,837	600,253



（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、一部の販売取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への販売取引における当社の役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人に該当する取引については当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当第2四半期累計期間の売上高は67,535千円、売上原価は67,535千円それぞれ減少しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,388,845	149,324	1,538,170	—	1,538,170
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,388,845	149,324	1,538,170	—	1,538,170
セグメント損益	105,985	19,413	125,399	△74,392	51,007

(注) 1. セグメント損益の調整額△74,392千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、1,432千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,302,286	165,171	1,467,458	—	1,467,458
セグメント損益	63,298	17,826	81,124	△74,888	6,235

(注) 1. セグメント損益の調整額△74,888千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、2,963千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。